



▲ 荏崎愛生幼稚園には地元の方々が扮した鬼が登場！園児らは鬼にめがけて元気いっぱい豆を投げていました。



▲ 中央町の雲岸寺境内では恒例の成田講節分会が行われ、福にあやかろうと子どもから大人までたくさんの方々が訪れ、豆を拾おうと一生懸命に手を伸ばす姿がみられました。

福は〜うちへ

2月3日(水)市内で節分行事

▶ 清哲町中谷地区では、伝統行事「舞い込んだ」が行われ、福が舞い込みますようにとの願い込めて、子どもたちが「舞い込んだ、舞い込んだ、福の神舞い込んだ！」と唱えながら各家を回り歩きました。



▲ 荏崎市栄養老人ホーム静心寮には、大相撲東関部屋の飛翔富士ら3名の力士が訪れ寮生らと交流をしました。



鳳凰三山の中でも、異彩を放つ岩をもつ地蔵ヶ岳。山頂の大岩付近の賽の河原（さいのかわら）と呼ばれる場所にはお地蔵様がたくさんまつられています。子どもを授けたいと願う方々がお地蔵さんを持ち帰って祈願し、願いが成就したらお地蔵様を2体にしてお返しすることで増えたものです。

いつから人々はこのように岩を信仰の対象とするようになったのでしょうか。この謎を解くかもしれない縄文時代の遺跡が市内にあります。穂坂町の女夫石遺跡では新たな命と関係の深いとされる土偶が100点以上発見されています。土偶は、直径2

地蔵ヶ岳の岩に魅入られて

にらさき遺産めぐり 第16回



メートルを超える大岩の周辺から発見されました。その大岩の周りには地蔵ヶ岳の賽の河原のごとく大小の石が入り混じっていました。それだけでなく、その大岩周辺から地蔵ヶ岳を眺めると、一年のうちで昼と夜とが半分となる春分・秋分の日に山頂に日が沈む光景を見ることが出来ます。特別な日に特徴的な山頂の日没を見ることが出来る場所で、特異な岩と非日常的な土偶が発見されたという事実は、偶然ではないでしょう。

地蔵ヶ岳の山頂を形作る岩は新しい命の誕生を祈る場として、縄文時代から現在まで人々を魅了し続けているのかもしれません。

女夫石遺跡の大岩は道の下に埋まり今は眼にすることはできませんが、発見された土偶は民俗資料館で見学することが出来ます。この3月の春分の日に縄文人が土偶とともに見た風景を見ることにチャレンジしてみたいかがでしうか。

(記事…文化財担当 関間)